

MACKIE®

S500 series

*Two-Way Loudspeakers
and Subwoofer*

日本語
オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。
---	--------------------------

	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	----------------------------

警告 この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

 必ず実行	本書をすべて読むこと この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。
---	--

 禁止	本体を落下しないこと 本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。
---	---

 必ず実行	本体を移動するときは適切な人数で作業すること この製品は重いので、移動の際は必ず適切な人数で作業を行ってください。その際、つま先や指などを挟まないようご注意ください。
--	---

 禁止	大音量で使用しないこと この製品をアンプなど他の機器と組み合わせて、長時間大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴の原因になる場合があります。
--	--

 禁止	アンプの通電中は出力ターミナルやスピーカーケーブルの心線にさわらないこと パワーアンプの出力には危険な電圧がかかっています。この電圧に触れると死亡または負傷の原因になる場合があります。
---	--

 必ず実行	この製品を吊り下げないこと この製品は吊り下げられるよう設計されていません。ハンドルを使う、あるいは金具を本体に取り付けて吊り下げることは絶対にしないでください。落下して周囲の人が負傷または死亡する原因になります。
---	---

注意 この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

 必ず実行	本体は安定した場所に設置すること 本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。
---	---

 必ず実行	スピーカーは定格範囲内で使用すること 定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する原因になります。特に歪みにはご注意ください。
---	---

 必ず実行	この製品を雨や霧の中に放置しないこと 本体に水分をかけたり、湿度の高い場所に放置すると故障の原因になります。
---	--

修理

日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

1. 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
2. テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jp にメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票を FAX で返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
3. オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。
4. 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
5. 必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。
6. 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢2-37-1

(株)サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業時間 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京

東京都中央区日本橋小伝馬町10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪

大阪府大阪市淀川区宮原2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋

名古屋市東区泉1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

福岡

福岡市南区大橋4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

営業時間 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

MEMO

目次

はじめに - 1
特徴 - 1
S500 フルレンジモデル - 1
S518 サブウーファー - 1
このマニュアルの使い方 - 2
はじめよう - 2
覚えておいてください - 2
接続図 - 3
S512 を 2 本、ミキサーやパワーアンプとともに使う場合 - 3
S515 を 4 本、ミキサーやパワーアンプとともにディージーチェーンで使う場合 - 3
2 本の S512 からディージーチェーンで S518S サブウーファーを接続する - 4
設置場所 - 5
ルームアコースティック - 5
保護機能 - 6
アンプのパワー - 6
推奨定格パワー - 6
スピーカーの故障を防ぐ - 6
付録 A: サービスに関する情報 - 7
音が出ない - 7
片側だけ音が大きい - 7
低域特性が良くない - 7
音が良くない - 7
スピーカーのお手入れとメンテナンス - 7
付録 B: 接続 - 8
TS フォーンプラグ、ジャック - 8
NL4 - 8
付録 C: S500 仕様 - 9
S512 - 9
S512 寸法図 - 9
S515 - 9
S515 寸法図 - 9
S525 - 10
S525 寸法図 - 10
S518S - 10
S518S 寸法図 - 10

はじめに

パッシブスピーカー S500 シリーズは、手頃な価格ながらプロフェッショナルの特性を提供する、完璧なボイスイングの最適なパッシブシステムです。すばらしい音質の高出力トランスデューサーを採用し、フルレンジボックスはかなり広い 90 度×50 度の放射角度を実現しました。

ツアーにも対応する丈夫な PVC コーティングの木製エンクロージャーには保護用のエッジバンパーが装着されていて、輸送中も大切な財産を守ります。S500 スピーカーは Mackie のパワーミキサー PPM シリーズに最適です。あるいは柔軟性と特性を持つパッシブシステムとして、Mackie のパワーアンプ FRS シリーズやスピーカープロセッサー SP260 と組み合わせて最適化することができます。

特徴

S500 フルレンジモデル

- プロのショーを支えるクラス最高レベルの許容入力
 - S512・・・プログラム 500W、ピーク 1000W
 - S515・・・プログラム 600W、ピーク 1200W
 - S525・・・プログラム 1200W、ピーク 2400W
- 高精度、高出力のトランスデューサー
 - S512・・・12" ウーファー、1" HF ドライバー
 - S515・・・15" ウーファー、1" HF ドライバー
 - S525・・・デュアル 15" ウーファー、1" HF ドライバー
- 丈夫でプロフェッショナルな PVC コーティングの木製エンクロージャーには保護用エッジバンパーを装着
- 90 度×50 度の広い放射角度を持つ高域ホーン
- ドライバーを損傷させないため高域出力を軽減する HF 保護回路
- NL4 と 1/4 インチ入力その他、アンプ 1 チャンネルに複数のスピーカーを接続するための THRU コネクター付き

S518 サブウーファー

- クラス最高の許容入力・・・プログラム 900W、ピーク 1800W
- 18 インチ高出力ウーファー
- 最大のパンチを与える低域にフォーカスしたローパスフィルターを内蔵
- NL4 と 1/4 インチ入力その他、アンプ 1 チャンネルに複数のスピーカーを接続するための THRU コネクター付き
- 丈夫でプロフェッショナルな木製エンクロージャーは信頼性が高く、テクスチャーペイントで仕上げ

このマニュアルの使い方

この導入部が終わると、すばやくセットアップするために役立つ情報が書かれています。接続例には一般的なセットアップの図があります。



このアイコンは特に重要な情報あるいはこのスピーカー独自の情報に付いています。読んで覚えておくといいでしょう。



このアイコンは機能に関するくわしい説明や実用的なヒントに付いています。たいいてい有用な情報に付いています。

付録 A はトラブルシューティングに関するセクションです。

付録 B はコネクタに関するセクションです。

付録 C は技術的な仕様に関するセクションです。

はじめよう

スピーカーをすばやくセットアップしたいとき、下記の手順が役に立つでしょう。

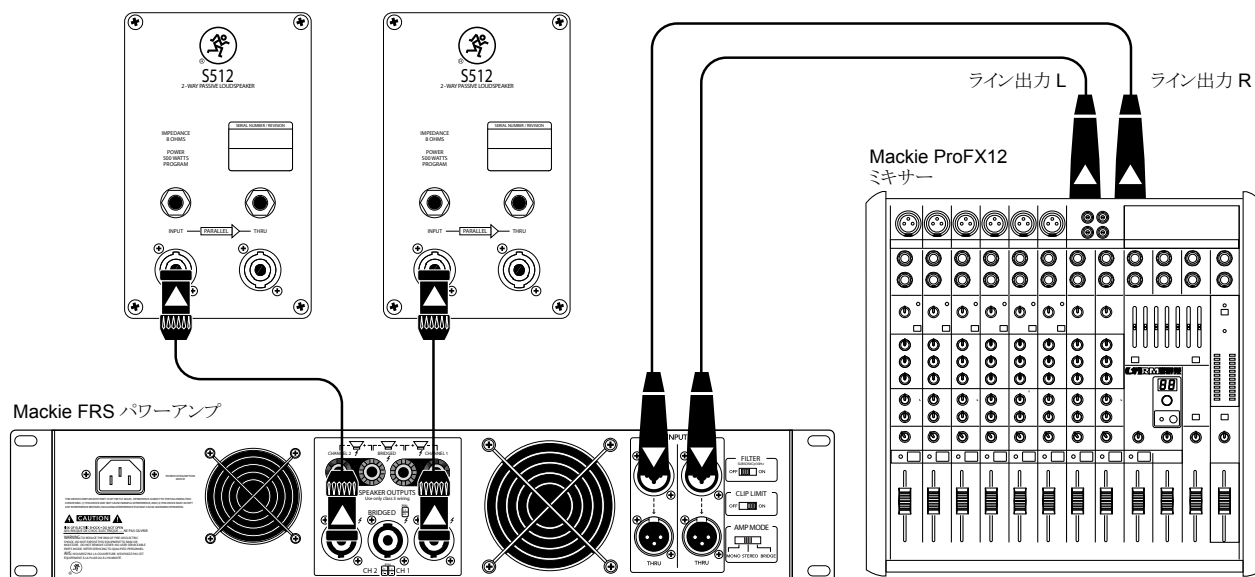
- 1 最初のあらゆる接続の前にすべての機器の電源を切ってください。マスターボリューム、ゲインコントロールがすべて下がっていることを確認してください。
- 2 ミキシングコンソール（または他のシグナルソース）のラインレベル出力を、パワーアンプの入力に接続してください。
- 3 パワーアンプ（またはパワードミキサー）のスピーカー出力を、S500 シリーズの INPUT コネクタ（NL4 または 1/4 インチ）に接続してください。
- 4 フルレンジスピーカーと共に S518S サブウーファーを使用する場合は、1/4 インチまたは NL4 の THRU コネクタと S518S の入力を接続してください。
- 5 ミキシングコンソール（または他のシグナルソース）の電源を入れてください。
- 6 パワーアンプの電源を入れてください。ボリュームやゲインコントロールはメーカーの推奨通りに設定してください。
- 7 マイクに向かってしゃべるあるいは CD プレイヤーをスタートするなどシグナルソースを再生します。ミキサー（または他のシグナルソース）のボリュームコントロールは、通常操作と同じように設定してください。

覚えておいてください

- 長時間にわたって大音量の音楽を聴かないでください。難聴の原因になる可能性があります。本書冒頭の「安全のために」をよく読み、その内容にしたがってこの製品を使ってください。
- 機器の電源を切るときは、ショックノイズや上流にある他の機器が発生するノイズがスピーカーから再生されないよう、パワーアンプを最初に切ります。電源を入れるときはパワーアンプが最後です。
- 製品の外箱と梱包材を保管しておいてください。必要になるときもあるでしょう。そうでなくても猫たちが遊び場として気に入るでしょうし、中から突然飛び出して驚かせてくれるかもしれません。そのときは忘れずに驚いてあげてください。
- この製品を購入したときのレシートを安全な場所で保管してください。

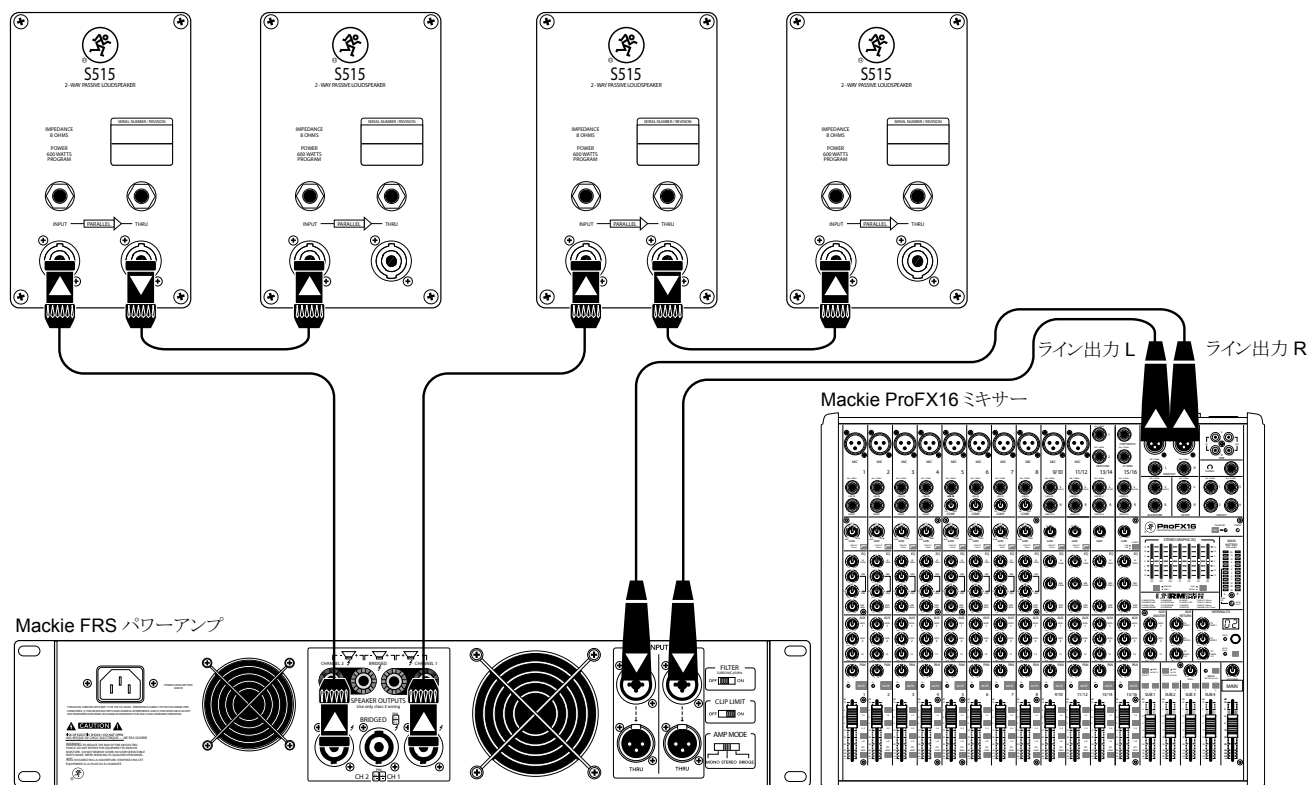
接続図

S512 を 2 本、ミキサーやパワーアンプとともに使う場合



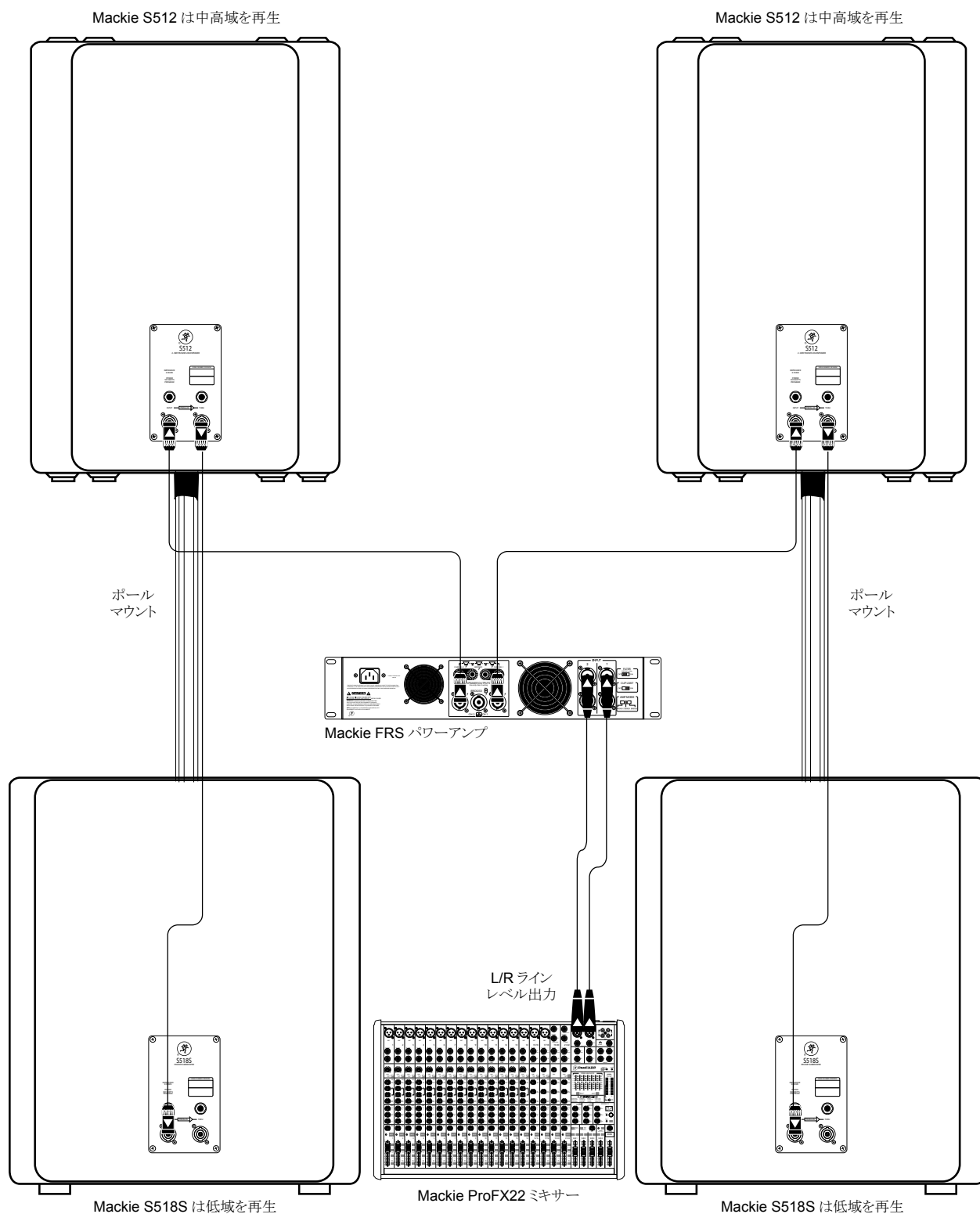
ミキサーの L と R のラインレベル出力をパワーアンプの入力に接続します。パワーアンプのスピーカー出力を Mackie S512 スピーカー 2 本の入力に接続してください。

S515 を 4 本、ミキサーやパワーアンプとともにディージーチェーンで使う場合



ミキサーの L と R のラインレベル出力をパワーアンプの入力に接続します。パワーアンプのスピーカー出力を Mackie S515 スピーカー 2 本に接続してください。それぞれの THRU ジャックから残る 1 ペアの Mackie S515 の入力に接続してください。

2本のS512からディージーチェーンでS518Sサブウーファーを接続する



S512 を S518S サブウーファーと一緒に使って、驚くほどパワフルなシステムにすることができます。ここではミキサーの L と R のラインレベル出力をパワーアンプの入力に接続しています。パワーアンプのスピーカー出力を **Mackie S512** スピーカー 2 本に接続します。それぞれの THRU ジャックを **Mackie S518S** サブウーファー組の入力に接続します。このサブウーファーにはローパスフィルターが内蔵されているので、低域だけを再生します。S512 は図のように、S518S サブウーファーの上にボールマウントすることができます。

設置場所

S500 シリーズのスピーカーは、床面やステージの上に置くよう設計されています。S512 と S515 はキャビネット底部に埋め込まれたマウントホールで、ポールマウントすることもできます。使用するポールがスピーカーの重量を支持できることを確認してください。S525 と S518S はポールマウントするよう設計されていません。



警告！ この製品のキャビネットにはリギングポイントはありません。吊り下げることできません。



禁止！ S500 シリーズのスピーカーをハンドルでリギングしないでください。

他のスピーカー同様、霧などの湿度から保護してください。屋外に設置する場合、雨が予想されるときはカバーなどで覆ってください。

ルームアコースティク

S500 シリーズのスピーカーは、可能な限りニュートラルなサウンドを提供するよう設計されています。しかしルームアコースティクは、サウンドシステム全体の特性に重要な役割を果たします。ここでは S500 シリーズから最高の特性を得るための、設置場所に関するヒントをいくつか紹介します。

- スピーカーを部屋の角に置かないようにしましょう。部屋の角に置くと低域出力が増強され、サウンドがぼやけたり不明瞭になります。
- スピーカーを壁際に置かないようにしましょう。角に置いたときほどではありませんが、これも低域出力が増強される原因になります。しかしながら低域出力を補強したいときには良い方法です。
- 空洞のステージ上にスピーカーを置かないようにしましょう。空洞のステージは特定の周波数で共振し、そのスペースの周波数特性にピークやディップを作り出します。スピーカーは丈夫な台の上に置くか、スピーカースタンドにマウントしてください。
- 高域ドライバーが観客の耳から 30cm 以上高くなるようにスピーカーを設置してください（立ち上がって通路で踊っている人たちのために余裕を持たせてください）。高域は方向性が強く、低域に比べてかなり吸音されやすい傾向にあります。客席からスピーカーがまっすぐ見えるように設置することで、音響システムの全体的な明るさや明瞭度を上げてください。

- 体育館や劇場など反射の多い空間は、音響システムの明瞭度にとって悪夢のようなものです。堅い床や天井、床面からの複数の反射が、サウンドを台無しにしてしまうのです。状況にもよりますが、反射を最小限に抑えるための対策をいくつか講じることができるでしょう。床にカーペットを敷く、大きなガラス窓に厚手のカーテンを掛ける、壁面にタペストリーを下げるなどして吸音します。

しかしたいへいこうした対策は不可能だったり実用的ではないでしょう。そんなときにできることはないのでしょうか。音響システムの音量を大きくすると、反射音も大きくなるため一般的には意味がありません。最善策は、客席をできるだけ直接音でカバーすることです。しかしスピーカーから離れるほど、反射音が目立ってくるでしょう。

スピーカーを増やして、後部席の近くに戦略的に配置します。前と後ろのスピーカーの間に 30m 以上の距離がある場合は、サウンドの到達時間を整合するためにディレイプロセッサーを使ってください（音は 1msec あたり 30cm ほど進むので、30m 進むには 1/10 秒ほどかかります）。

保護機能

S512、S515、S525には、高域コンプレッションドライバーを極端に高いパワーから守るための、保護回路が内蔵されています。この機能が動作すると、ドライバーに供給されるパワーが一時的に減らされます。ドライバーが冷却されて安全な動作温度になると、保護回路はリセットされて通常動作に戻ります。

しかし極端なパワーを検出すると、保護回路がまた機能します。この場合はパワーアンプのゲインコントロールを下げるか、ミキサーまたはその他のシグナルソースでマスターボリュームを下げて、スピーカーに送られるパワーを減らしてやらなければなりません。

！ 注意！ この保護回路は、常識的な状態で高域ドライバーを守るよう設計されています。警告状態（ミキサーやパワーアンプの CLIP LED がひんぱんに点灯したり、極端に歪んでいるなどの状態）を無視して使い続けると、推奨アンプ定格出力やアンプのクリップ状態を超えて S500 シリーズを酷使うことになるため、故障の原因になります。この場合は、保証期間内でも保証対象外になります。

アンプのパワー

S500シリーズには、耐入力に関する3つの値が表記されています。それぞれrms（連続）、プログラム、そしてピークです。それではS500シリーズをドライブするときに本当に必要なパワーは、どれほどなのでしょう。この質問に対する答えは、どんなプログラムを再生するのか、そしてどの程度の音量が必要なのかによって異なります。

音声信号の中には、振幅がプログラム全体の平均レベルをかなり超える短時間のピークを大量に含むものがあります。この良い例がパーカッションです。他には、かなりコンプレッションされたロックのように、平均信号レベルが高くてピークが少ないものもあります。スピーチなら全体的に必要なパワーは少なくなりますが、瞬間ごとにレベルが大きく変動します。

スピーカーが持つ能力をフルに発揮させて使おうとすると、そしてプログラムに少なくとも短時間のピークがいくらか含まれている場合、Mackieではスピーカーの連続定格耐入力（8Ω）の2倍程度の定格出力を持つアンプを推奨しています。S512の場合、チャンネルあたり8Ωで $250W \times 2 = 500W$ になります。これならアンプのクリップ手前で連続定格出力（rms）より6dB高いピークを再生できることになります。

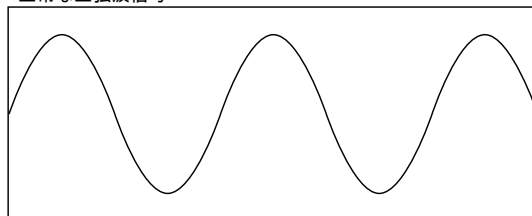
推奨定格パワー

- S512: 500W (8 Ω) - $250W_{rms} \times 2$
- S515: 600W (8 Ω) - $300W_{rms} \times 2$
- S525: 1200W (8 Ω) - $600W_{rms} \times 2$
- S518S: 900W (8 Ω) - $450W_{rms} \times 2$

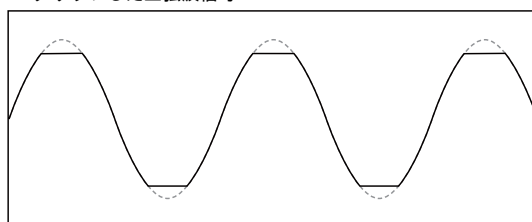
スピーカーの故障を防ぐ

スピーカーの故障原因ナンバー1は、いわゆるクリップです。クリップとは、信号がシステム中のデバイス（アンプだけではありません）の出力で、最大レベルに到達したとき発生するものです。そのデバイスの入力信号は増大し続けるかもしれませんが、出力は増大するのをやめるので、オシロスコープで見たとき「頂点が平ら」な波形になります。

正常な正弦波信号



クリップした正弦波信号



クリップするとトランスデューサーの動きがじゃまされ、ドライバー内部に歪みと極端な熱が発生し、長い間には故障につながる可能性があります。

中には定格出力がスピーカーの許容入力より小さいパワーアンプを使えばスピーカーを故障させることはないだろう、という人がいます。しかし出力の小さなアンプであっても、クリップしてしまえばスピーカーを壊すことはあり得るのです。

スピーカーの故障を防ぐために肝心なことは、音響システムを的確にドライブすることです。音響システムの的確な操作とは、再生しようとする音声信号の種類を認識すること、したがって出力レベルを制御することであり、シグナルチェーンのどこにもクリップが発生しないようすべてのデバイスを操作することです。

付録 A: サービスに関する情報

Mackie製品に問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

音が出ない

- ミキサーやアンプのレベルコントロールが下がりきっていませんか。2 ページの「はじめよう」で紹介した手順にしたがって、システム中のボリュームコントロールがすべて適切に調整されていることを確認してください。
- シグナルソースは動作していますか（または最低賃金を支払っていますか）。
- 接続はすべて良好で音が出ていますか。ケーブルが良い状態であること、両端でしっかり接続されていることを確認してください。

片側だけ音が大きい

- ミキサーやアンプの両方のチャンネルで、レベルコントロールが同じように設定されていますか。
- シグナルソースのPANノブを確認してください。片側に寄りすぎていませんか。ステレオのシグナルソースを使っている場合、ステレオ信号がバランス良く供給されていないかもしれません。
- 両側のケーブルを入れ替えてみてください。パワーアンプの電源を切り、アンプ側で出力ケーブルを左右で入れ替えて再びアンプの電源を入れます。まだ同じ側の音量が大きい場合、スピーカーケーブルまたはスピーカーで問題が発生しています。反対側の音量が大きくなった場合はミキサー、スピーカープロセッサ、アンプ、ラインレベルケーブルで問題が発生しています。

低域特性が良くない

- アンプとスピーカーの接続で極性を確認してください。ケーブルの一方の端で陽極と陰極が反転しているかもしれません。

音が良くない

- 入力コネクタをきちんとジャックに差し込んでありますか。プラグが奥まで差し込まれていることを確認してください。
- 音量が高くて歪んでいますか。ミキサーでレベルを下げてください。
- 可能であれば、プリアンプ部にヘッドフォンを差し込んでシグナルソースの音を聴いてください。ここで音が良くなければスピーカーの問題ではありません。
- 低域が多すぎるあるいは不足していますか。部屋中を歩き回って低域特性が変わるかどうかを確認してください。リスニングポジションが、低い周波数を誇張するあるいは無効にするルームモードなのかもしれません。この場合はスピーカーの位置か、リスニングポジションを変えてください。

スピーカーのお手入れとメンテナンス

下記のガイドラインに沿って信頼性の高いサービスを行えば、Mackie のスピーカーは長年にわたってご愛用いただけます。

- スピーカーを霧の中に放置しないでください。屋外に設置する場合、雨が予想されるときはカバーなどで覆ってください。
- 極端に寒い場所（零下になるような場所）に放置しないでください。とても寒い環境でスピーカーを駆動させなければならぬ場合は、まず 15 分ほど低いレベルの信号を送ってボイスコイルをあたためてから、高出力動作させてください。
- キャビネットのお手入れには、毛くずの出ない布と刺激の少ない石けんを使ってください。キャビネットの開口部、特にドライバが配置されている部分に水分がかからないよう注意してください。

付録 B: 接続

S500 シリーズのスピーカーには、入力と THRU コネクターとして 1/4 インチと NL4 が付いています。このコネクターは並列に配線されているので、入力として使えるのはひとつだけです。

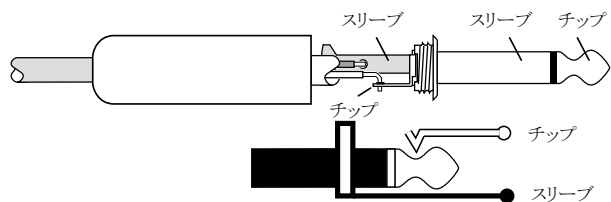
通常は THRU コネクターをひとつだけ使いますが、両方使うこともできます。ここで気をつけなければならない点は、THRU コネクターで接続されたスピーカーがすべてパラレルになっていることです。つまりアンプの最小インピーダンスを下回らないようにしなければなりません。



スピーカーをパワーアンプの出力に接続するときは、太い撚り線のケーブルを使ってください。スピーカーを接続するとき、ギターケーブルなど同軸のケーブルを使わないでください。こうしたケーブルはパワーアンプが生成する大電流に耐えるよう設計されていないので、過熱する場合があります。パワーアンプとスピーカーの距離が長くなる場合は、スピーカーケーブルも太くしてください。スピーカーケーブルには抵抗があり、抵抗を通過する電気はパワーを損失します。ケーブルを太くすると抵抗が小さくなるので、実際にスピーカーに送られるパワーが増えるのです。

TS フォーンプラグ、ジャック

「TS」はチップ - スリーブの略で、2 つの接点を持つモノラル 1/4 インチフォーンのジャックやプラグです。通常はアンバランスの信号やスピーカーを接続するときに使います。



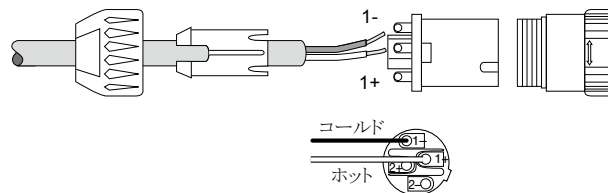
1/4 インチ TS コネクター

スリーブ = コールド (-)

チップ = ホット (+)

NL4

このコネクターはアンプが生成する大電流に対応し、不注意で外れることがないようにロック機構が付いた設計です。プラグのタブを S500 シリーズのジャックに合わせ、押し込んで時計回りに回してください。1/4 回転でロックしはまります。



1+ ピン = コールド (-)

1- ピン = ホット (+)

2+ ピン = 接続されていません

2- ピン = 接続されていません

付録 C: S500 仕様

S512

システム

タイプ	2 ウェイ、フルレンジスピーカー
周波数範囲 (-10dB)	49Hz ~ 18kHz
水平指向角度	90 度
垂直指向角度	50 度
能率 (1W @ 1m)	99.9dB SPL
公称インピーダンス	8 Ω
許容入力	連続 250W プログラム 500W ピーク 1000W
クロスオーバー周波数	3600Hz

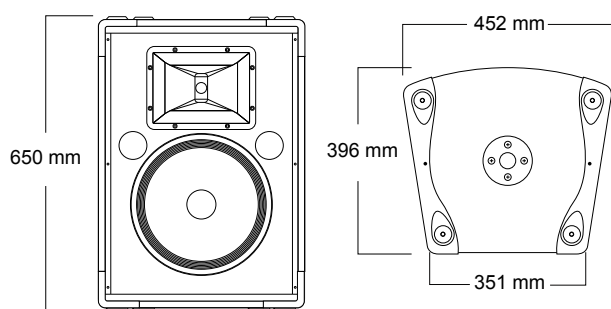
トランスデューサー

低域	12 インチウーファー バスレフ
高域	1 インチツイーター

物理的仕様

入力コネクター	1/4 インチ TS ジャック× 2 NL4 × 2、並列
エンクロージャー	木製 黒色テクスチャーペイント PVC コーティング
寸法	高さ 650mm 幅 452mm 奥行き 396mm
重量	22kg
マウント	ポールマウント対応

S512 寸法図



S515

システム

タイプ	2 ウェイ、フルレンジスピーカー
周波数範囲 (-10dB)	47Hz ~ 18kHz
水平指向角度	90 度
垂直指向角度	50 度
能率 (1W @ 1m)	101.1dB SPL
公称インピーダンス	8 Ω
許容入力	連続 300W プログラム 600W ピーク 1200W
クロスオーバー周波数	3400Hz

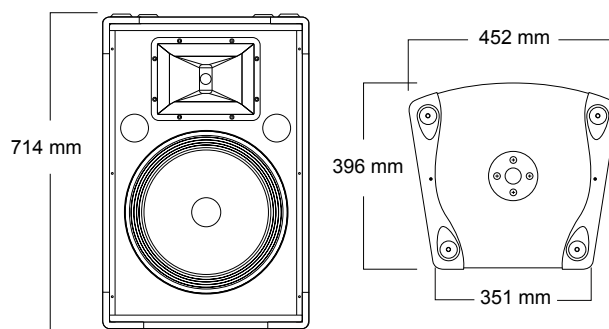
トランスデューサー

低域	15 インチウーファー バスレフ
高域	1 インチツイーター

物理的仕様

入力コネクター	1/4 インチ TS ジャック× 2 NL4 × 2、並列
エンクロージャー	木製 黒色テクスチャーペイント PVC コーティング
寸法	高さ 714mm 幅 452mm 奥行き 396mm
重量	23kg
マウント	ポールマウント対応

S515 寸法図



S525

システム

タイプ	2 ウェイ、フルレンジスピーカー
周波数範囲 (-10dB)	51Hz ~ 18kHz
水平指向角度	90 度
垂直指向角度	50 度
能率 (1W @ 1m)	102.9dB SPL
公称インピーダンス	8 Ω
許容入力	連続 600W プログラム 1200W ピーク 2400W
クロスオーバー周波数	2800Hz

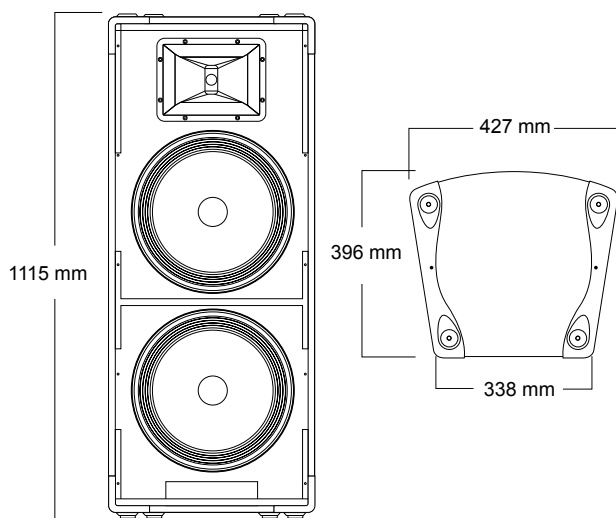
トランスデューサー

低域	15 インチウーファー× 2 バスレフ
高域	1 インチツイーター

物理的仕様

入力コネクター	1/4 インチ TS ジャック× 2 NL4 × 2、並列
エンクロージャー	木製 黒色テクスチャーペイント PVC コーティング
寸法	高さ 1115mm 幅 427mm 奥行き 396mm
重量	34kg

S525 寸法図



S518S

システム

タイプ	サブウーファー
周波数範囲 (-10dB)	37Hz ~ 220Hz
能率 (1W @ 1m)	98.3dB SPL
公称インピーダンス	8 Ω
許容入力	連続 450W プログラム 900W ピーク 1800W
内蔵ローパスフィルター	120Hz, 12dB/oct

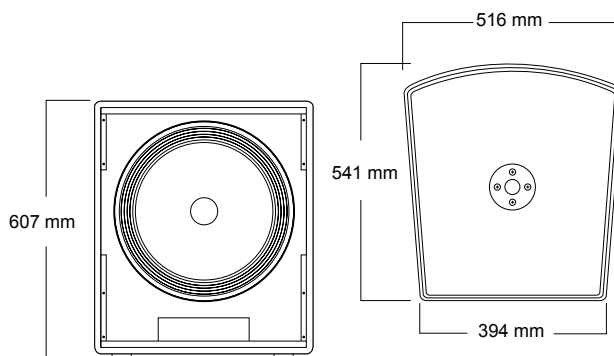
トランスデューサー

低域	18 インチウーファー バスレフ
----	------------------

物理的仕様

入力コネクター	1/4 インチ TS ジャック× 2 NL4 × 2、並列
エンクロージャー	木製 黒色テクスチャーペイント PVC コーティング
寸法	高さ 607mm 幅 516mm 奥行き 541mm
重量	32kg
マウント	天面ポールマウントホール

S518S 寸法図



LOUD Technologies社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。「Mackie」、「ランニングマン」、「Running Man」はLOUD Technologies社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

MACKIE®